

うな事故



おくことが安全・安心につながります



芝刈り機の掃除をするときに、素手で行ったために手や指を切ってしまう



遊んでいる子どもが芝刈り機にぶつかってケガをしてしまう



暑い日に長時間作業して、熱中症になってしまう



倉庫の鍵を掛け忘れて、子どもが中で遊んだり、備品が無くなってしまう

日頃から 事故への備えを

- ☐ 不測の事態や緊急時に対応するため、担当者と役割をしっかりと決めておきましょう。
- ☐ 救急箱やAEDの場所を確認して、応急処置ができるよう訓練をしておきましょう。
- ☐ 教員の異動や生徒の卒業等で管理に関わる人が代わっても、あわてずに落ち着いて対処できるよう、マニュアルの整備と緊急連絡網の更新をしておきましょう。

もしも 事故が起これば しまったら

- ☐ ケガの状態を確認し、適切な応急処置を行った上で医師の診療を受けるようにしましょう。
- ☐ マニュアルや緊急連絡網に従って、保護者や学校、その他必要な関係者に必ず連絡をしましょう。

参考書籍のご案内



知っておきたい 校庭芝生化のQ&A

公益財団法人 都市緑化機構
グランドカバー・ガーデニング共同研究会
編著 鹿島出版会 2013年2月25日発行
A5判 定価(本体2,000円+税)

芝生の基本的な知識から、芝生校庭の計画・活用方法、維持管理まで、Q&A形式でいねいに解説。

制作 2017年9月



公益財団法人 都市緑化機構
グランドカバー・ガーデニング共同研究会

編集協力：芝生部会（秋篠、柳、福島、小東、高木、池田、石井）
制作：株式会社マインドシェア イラスト：宮崎典子

お問い合わせ

電話 03-5216-7191

URL <https://urbangreen.or.jp>

校庭芝生の管理作業

安全のしおり

絶対に事故を起こさないために



校庭の芝生は、学校や周りの人々が一生涯懸命管理してくれているおかげで、「思いきり遊べて楽しい」「寝転がると気持ちいい」など、子どもたちから喜ばれるものになりました。

でも、芝生の管理作業には、一つ間違えると危ないことも潜んでおり、もしも事故が起これしまうと、「芝生はやめておこう」という風潮になりかねません。そのような悲しいことが起こらないことを願ってこのしおりをつくりました。これからは子どもたちが芝生で遊べるように、大切な芝生をみんなで守っていきましょう。

公益財団法人 都市緑化機構
グランドカバー・ガーデニング共同研究会

起こりそ

起こりそうな事故をあらかじめ知って



芝刈り機の刃に挟まった枝などを取り除こうとして、手を切ってしまう



芝生の上の小石を芝刈り機の刃で弾いてしまい、飛んできた小石でケガをしてしまう



熱くなった芝刈り機のエンジンを触ってしまい、火傷をしてしまう



素手で農薬や肥料に触れて、手がかぶれてしまう

安全に対する心構え

作業前、作業時、作業後、それぞれの安全に対する心構えです

作業前 準備

- ☐ 作業を始める前に、全員集合して作業内容（手順、注意事項など）、作業リーダーを確認しましょう。
- ☐ 芝生の維持管理では、作業に関わる人たちの体調管理も重要です。体調の悪そうな人には声をかけて気遣いましょう。また、見知らぬ人が出入りしないよう、名簿を用意して確認し、初めての人には声をかけるようにしましょう。
- ☐ 動きやすい服（できる限り長そで、長ズボン等）と帽子、運動靴、軍手の着用など、安全な作業に適した服装をしましょう。
- ☐ 熱中症を防ぐため、夏期の作業では休憩時間をこまめに取ったり、飲み物を準備するなどの対策を取りましょう。
- ☐ 芝刈り機による飛び石などを防ぐために、校庭を事前に見回り、落ちていた石や枝などを拾いましょう。
- ☐ 周りにいる管理作業以外の人たちにも、行う作業の内容、作業範囲、所要時間等を説明し、理解してもらいましょう。
- ☐ 知識のない子どもが不注意や興味により作業中に近寄ったりするのは危険です。子どもたちに芝刈り機による切り傷や裂傷、機械にぶつかったの打撲、エンジンに触れての火傷等の危険性を、十分に理解させましょう。

作業時 作業機械の取り扱い

- ☐ 芝刈り機は刃物の付いた機械です。作業ではふざけず、安全の確保を最優先させましょう。
- ☐ エンジン式の芝刈り機は思わず動いてしまうことがあるので、周りに人がいないことを確認してから始動させましょう。
- ☐ 機械を使った作業では必ず大人が同行し、絶対に子どもたちだけで作業させないようにしましょう。
- ☐ 安全に作業できているかを確認するため、必ず複数の大人が参加して全体の様子が見渡せるようにしましょう。

作業後 点検と保管

- ☐ 作業後以外にも、日頃から機械に不具合がないかどうか、しっかりと点検を行いましょう。
- ☐ 作業後には芝生上に工具や部品などが落ちていないか確認しましょう。
- ☐ 倉庫の中には、芝刈り機や肥料、農薬、ガソリン等、子どもが触ると危ないものが多いので、そばに大人がいない時には必ず鍵をかけておきましょう。
- ☐ ガソリンは、爆発や火災の危険性が高いので、必ず専用缶に入れましょう。
- ☐ 農薬をペットボトルなどに小分けしないでください。誤飲の恐れがあります。
- ☐ 倉庫は常に整理整頓し、なくなった物がすぐわかるよう、決まった場所に片づけましょう。

もう一歩進んだ安全管理

安全のためのルールづくり

実際の現場で起こりそうな事故やリスクを想定して、事前に回避する方法を考えましょう。管理用具や機械ごとに使用条件を定めておくことも安全に役立ちます。できるだけ守りやすく、わかりやすい、シンプルなルールにしましょう。

講習会・研修の継続

学校では、生徒の卒業や先生方の異動などのタイミングで、芝生管理に関わる人が代わるが多くなります。このため、芝生の基礎知識や維持管理の方法などを学べる講習会や研修を毎年行い、安全管理についても周知徹底を図ることが大切です。

安全マニュアル・作業説明パネルの作成

芝生管理の初心者向けに、作業方法と安全についてまとめた配布物のほかに、参加者に説明するための大きなクリアホルダやパネルなどを用意しておく便利です。勘違いや説明し忘れを防ぐために、説明手順書もまとめておきましょう。



年に一度は専門家のメンテナンスを

機械は、皆さんが普段行う日常点検だけでなく、年に1度はメーカーや専門業者などの点検・修理を受けておく安心です。きちんとメンテナンスしておけば機械の寿命も延び、より安全に使うことができます。

安全な作業を行うための工夫

芝刈り機の刃の掃除でのケガを防ぐため、直接刃に触らないようにホウキや手ボウキを使って作業するなど、作業手順を見直して危険を回避することも大切です。

